

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390101568		
法人名	株式会社 かいごのみらい		
事業所名	グループホーム泉ヶ丘 (パールユニット)		
所在地	熊本市東区南町16-8		
自己評価作成日	令和4年3月4日	評価結果市町村受理日	令和4年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和4年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和3年5月にホーム長が交代し、手探り状態の1年でした。まずは自立支援推進のため下肢訓練やヒヤリハット活動など毎月の月間目標を決め、一歩ずつの取り組みを始めております。コロナ禍で面会制限が長期に渡るという非常事態の中、ご利用者様の帰宅願望や不穏などの周辺症状が強く見られることもあり、ご利用者様の思いには寄り添いの姿勢を第一に、面会制限中のご家族とご利用者様との文通なども取り入れ、お会いすることはできなくても、ご家族との絆を紡いでいけるよう努めてまいりました。また令和2年度より「新型コロナウイルスゼロ」を目標に施設内での感染対策の徹底や職員一人一人が高齢者施設に勤務する職員として日常生活においても高い倫理観をもって行動した結果として、当ホームにおいて2年間にわたり新型コロナウイルス感染者を出していないことを自負しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この2年入居者の入れ替りや、ホーム長の交代等変革期にあるが、枇杷の実が食に生かされるように生長する等庭に植えられた木々がホームの経年を物語っている。コロナ禍という難局に感染対策の徹底や外出に代る室内でのレクレーションの充実、食の工夫等今できる最大限の支援に努めている。開設当初より継続して発行する泉ヶ丘通信に加え、ブログでの日常発信は訪問が制限された家族への安心感として生かされている。入居者も最高齢104歳を筆頭として高齢化が進み、家族との絆への注視や、家族及び協力医療機関や訪問看護、ホームとがチームとして“その人らしく”最終章を支えている。地域にあるホームとしてイルミネーションを灯し、地域の方々が足を止めるきっかけとする等地域に根ざすべく努力を惜しまず、ホーム長として新たな基盤作り、月間目標を立てる等ベクトルを同じくして取組むホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼後に勤務者全員で理念を唱和し、休憩室やトイレ等、目にとまる場所にも掲示しており、理念の共有を心がけています。	開設時からの理念は“ほっとできる心地よい空間作りや、一人ひとりの尊厳を大切にすること、自由に自分らしくいられる否定しない介護”を謳い、唱和を読むことで意識付けとし、家に近い環境で入居者がゆっくりとして生活で過されている。ホームページにより理念の啓発やその理念を基した生活であることを開示している。	管理者の変更という変革期、及びコロナ感染症予防対策により理念を振り返ることは出来なかったと認識されている。時間の余裕ができたなら、全員で理念を想起させながらの話し合いに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の活動も新型コロナ感染防止のため自粛されており、また当ホームでも面会制限や認知症カフェの休止等行っている為、地域の方との関わりは今年度かなり減りました。	地域行事や例年であればホームで開催していた認知症カフェも中止しているが、自治会に加入し回覧板の受渡し等近隣住民との関わりは継続している。地域の為に何が出来るかを検討し、クリスマスにはイルミネーションをともし、地域住民が立ち止まるきっかけとする等、地域に根ざすための努力を惜しまないホームである。	地域自治体と「泉ヶ丘校区高齢者見守り隊」を結成したり、例年であれば子ども避難場所として登録し、子ども会の行事へも参加されていた。コロナ感染症に目処が立てば、地域との交流に再スタートされることと期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は地域の皆様と関わることができず、地域貢献はできていませんが、せめて地域の皆様の癒しの場となるべく、クリスマスシーズンに施設周囲にイルミネーションの点灯を試みました。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍であることを考慮し、対面での会議は行わず書面での報告となりました。感染対策を優先したために、一方的な情報提供となり、率直なご意見をお聞きする機会が作れませんでした。	今年度は書面審議として、入居状況や職員体制、感染対策状況及び活動状況、ヒヤリハット事例等を記し、構成委員(自治会会長、民生委員地域包括支援センター、協力医療機関、薬局、家族等)に配布している。	コロナ感染対策として対面での開催が難しい場合には、報告書に加え、委員宛の書面等により意見等を徴収し、サービスに反映出来るよう検討いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	まだ市町村担当者様との協働関係を築くにはいたっておりません。時間的余裕がなく参加できていなかった認知症カフェ連絡会には3月度より参加予定です。	コロナ感染対策でのメールによる情報交換や、ワクチン接種等のアンケート調査への対応、介護認定更新を代行し訪問調査時に立ち会い状況を発信しているが、管理者としてまだ日が浅いという現状に、必要最低銀の関わりである。運営推進会議が対面での開催になれば、顔を合わせることで協力関係が築き易くなるものと思われる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入所時に身体拘束をしないケアに取り組む意向をご説明しています。転倒のリスクのある利用者様など、毎月手紙や電話でご家族と情報共有を行いながら支援内容にも工夫を凝らすよう努力しています。	身体拘束ゼロ宣言・高齢者虐待ゼロ宣言を掲げ、身体拘束適正委員会のなかで意識の統一を図り、不適切ケアチェックシートにより振り返っている。転倒事故等によるグレーゾーンの話し合いや、差別、プライバシーの侵害、人権無視やあれ愛の言葉等細やかな部分まで研修している。転倒リスクの高い入居者に足元センサーを設置しているが、家族には入居に際しリスクを説明し、プランに組み入れている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内2カ所に「高齢者虐待ゼロ宣言」を掲示し、職員への意識啓発を行っています。今後は研修等を通じてさらなる周知徹底を図って行きたいと思えます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は権利擁護に関する研修会等への職員の参加はなりませんでした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては一つ一つ確認をとりながらすすめています。また重度化により発生する機器や訪看費用についてもご家族と事前に話し合い、納得いただいた上で使用時期等を検討しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会活動もコロナ禍にて見合わせた為、ご意見をお聞きする場として、ご家族来訪時には必ず近況をお伝えし、遠方からであってもご様子を見て頂き、ご意向を伺うようにしています。ご意見箱への投稿は無く、待機者からの苦情が1件あり。	家族の訪問の都度現状報告や希望等を聞き取りし、遠くからでも入居者の姿を見てもらうようにすることで家族の不安解消の一環としている。担当職員による毎月の手紙(現状や職員の気づいた事案等)の他、ブログにより日常生活や行事等を開示している。通常であれば家族会の開催により家族との意見交換等がホーム運営に活かされていたが、コロナ禍で開催も出来ない状況にある。家族からは面会制限に対しての理解もあり、家族からの意見は出されていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善委員会を機能させ、現場の職員から受けた個別の提案や新しい試みについては必ず意見交換を行いました。また月1回のケア会議でも全職員に何かひとつ発言する場を設けるようにしています。	管理者の変更という現状に、業務改善会議を開催し、話し合いながら改善している。また、毎月のスタッフ会議の中で発言の順番を考えながら全職員が発言する機会を作っている。調理の洗い物の多さには食器を見直し、料理も専任職員としている。また、職員との合議により早出、勤務帯の仕事の分担等を話し合っている。管理者と職員はもともと同僚としてフランクな関係にあり、日々のケアの中でコミュニケーションを図り、スキルアップに向けた相談等に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課のためのチャレンジシートをもとに職員と個別に話をする機会を設け、職員の思いを知ることができるよう努めました。また可能な限り、職場環境・条件への希望には対応するようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が積極的に外部研修等に参加しやすいように費用の一部負担等行っています。また無資格者には来年度、初任者研修を受ける機会を確保するので研修の受講を計画するよう話をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	これまで時間的な余裕がなく積極的な交流の場が持てませんでした。またホーム長交代のご挨拶も遅れ、連携という点では出遅れています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前より数回の面談を行い、利用者様およびご家族との信頼関係を築けるよう努めました。利用者様の言動をヒントにご家族から情報収集し、入所時のケアプランに反映させました。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学の段階から時間をかけ、ご家族の思いに引き合い対応させていただいたせいか「絶対、ここに入所したい」と言っていただけるようになりました。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の情報をもとに入所時支援を始めますが、共同生活を送る中で利用者様のニーズを職員らと一緒に考えていく姿勢を重視し、担当職員によるモニタリングの試みを開始したところです。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様には、日々の介護以外にも、受け持ち職員をつけることで関わりの幅をもたせ、利用者様を深く知る努力をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族来訪時には、近況報告し情報を共有することで共に支えあう協力体制をとっています。また利用者様とご家族の良き理解者であるよう心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外部との接触の機会が減ってしまいましたが、馴染みの美容室の利用やかかりつけ医の受診等はタイミングを見計らい継続するようにしました。姉妹での入居も2組に増えました。	家族との絆が途切れない様に電話や手紙でのやり取りを支援し、外に出ることが制限されるなかでもコロナ感染症のタイミングを見ながらの家族との美容室の利用や職員が同行するかかりつけ医への受診等支援している。健軍神社でいただいたお神籤と手作り泉ヶ丘神社での初詣や、お内裏様とお姫様(着物姿)との撮影会等室内で今できる馴染みの人や慣習等を継続させている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の状態や相性など考慮し、食事席の配置をしたりユニット間の交流も取り入れています。集団に入れない場合は、職員が関与しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所された方や看取り退所となったご家族からのご相談等には誠意を持って対応、支援するよう努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	業務優先とならずに利用者様の訴えや言動から見えてくる個々の思いを汲み取り、「思いや意向へのこだわり」をもった関わりができるように職員一同努めております。	職員は入居者に寄り添い、良く話を聞く時間を作り、職員の思い込みのケアを行わないことやチェック(見える化)により状況や情報を共有している。入居者の言動や行動での推察や、時々思いや言葉に出来ないこと等に寄り添い、本人本位になるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前よりご本人やご家族と面談する機会を増やし、なるべく多くの情報を収集できるようにしています。またこちらからも積極的に情報提供することでご家族もまた色々な話をしてくださるきっかけになっているように思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	チーム内で記録するチェック表を作成し、こちらの働きかけに対する反応を記録していくことでその方にあつたケアの把握やチーム内の情報共有しチームケアとして対応しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーだけでなく、職員もモニタリングに加わる試みを始めました。またご家族だけでなく、担当医師、薬剤師との意見交換も行っています。	3ヶ月毎に援助目標の達成度を見きわめ、その内容も家族に電話で報告し、半年ごとの担当者会議には家族も参加してもう事としているが、コロナ禍で訪問を中止した時期には電話で意向などを聞き取りし、新たなプランを作成している。また、介護度の変更や入居者の心身の状態が見られれば随時見直し、新たなプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録が完全電子化され、業務の効率化や迅速な情報共有が出来るようになりましたが、一方で入力操作に苦手意識をもつ職員も多く、記録内容が単純化している傾向も見られます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様のその人らしさを大切に多機能化を進めていけるよう模索中です。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にて活発な地域資源の活用ができていません。規制緩和の時期に訪問リハ・マッサージや訪問理容を再開したり、夏には職場体験の高校生の受け入れなどを行いました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の同意を得て、協力医をかかりつけ医とさせて頂いていますが、24時間対応電話を設けられ、より適切な医療と安心が得られています。また婦人科や精神科等、従来のかかりつけがある場合は職員同行し受診支援を行っています。	家族の同意のもと訪問診療のある協力医療機関をかかりつけ医としている。かかりつけ医とは24時間電話連絡が可能で有り、24時間の医療との連携は家族及び職員の安心に繋がっている。歯科についても2箇所からの訪問診療で対応している。専門医への受診には家族での支援としているが、必要時には職員も同行し、直接主治医から説明を受けている。また、管理者を中心に、日々のバイタルチェック等により異常の早期発見に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニットに1名の看護師を配置し、またホーム長、ケアマネも看護師であるため、介護職の気づきや疑問には看護職がわかりやすく丁寧に説明しています。時には外部訪問看護を入れ、協働体制をとっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には主治医とご家族の意向をもとに入院先が決定されます。入院中は病院関係者と情報交換、退院計画を話し合いながらより早期の退院となるよう支援しています。また退院時カンファレンスにも参加し安心して生活が送れるよう各所と連携をとっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に必ず医療連携同意書の確認を行い、医師の治療方針等は早い段階からご家族に伝え意見交換を行っています。終末期には訪問看護の力を借り、その人らしさを取り入れた看取りプランを計画し実施しています。	入居時に重度化した場合の指針をもとに家族に説明し、延命治療などについて意向を確認している。救急搬送についても家族と意向に沿ったケアに努め、看取りケア専用プランに変更し、最期の時まで”その人らしく”に注視し、訪問看護の力を借りながら、家族の意向を基にコロナ禍であっても入室者等を決め、家族に寄り添ってもらおうこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は勉強会のみで心臓マッサージ等の実習はできていません。看護師による利用者様の急変対応後には、介護職への初期対応の復習を行うようにしています。AED設置についても本部と交渉中です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度はコロナ禍のため年2回施設内での自主防災訓練のみとなりました。訓練時にはあわせて漏電防止で全室コンセントのチェックも行っています。熊本地震後の備蓄の多くが期限切れとなり補充しましたが、まだ数の不足があります。	今年度は、漏電による火災を想定した訓練と、中庭を避難場所とした訓練を実施している。消防署への連絡をロールプレイで体験し、各自が役割を確認している。日々の安全点検は、”防災巡視確認日誌”の記録により確認するなど危機管理意識を高くして臨んでいる。災害時の備蓄はリスト化し管理している。時にコロナ禍に使いして用具を準備している。	管理者は屋間を想定した訓練であったことから、夜間を想定して実施する必要があるとしている。また、自然災害については机上訓練等で意識強化を図ることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみや慣れから言葉遣いが不適切なケースも見られます。また見守り重視となりトイレ介助時にドアが開いていることなどもあり、要検討事項です。お互いが注意しあえる職場作りも必要と考えます。	入居者への呼称は基本的には苗字や下と名前にさん付けとし、これまで呼ばれていた入居者に馴染みのある呼び方でも対応している。管理者は、見守りが必要な入居者が多く、トイレのドアを開けたままの支援や、友だちと会話するような話しかけになる等不適切な対応が見られるとして、お互いの注意喚起の必要性を感じている。個人情報保護や守秘義務について、家族及び職員にも同意書や誓約書を交わしている。	プライバシーや言葉使いについては、機会ある毎に問題点を検討し、職員一人ひとりが意識を持ってケアに当ることや、職員同士が注意喚起できる環境作りに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着たい服を選んでいただいたり、飲み物の希望もお尋ねして提供するようにしています。また食事時間や入浴時間は一定程度目安はあるものの、基本ご利用者様の時間帯に合わせて支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いすることなく、その時のご利用者様のペースを尊重し、ご利用者様ファーストの支援を続けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容と時には化粧を楽しんだり時には美容室に行ったりとその人らしいおしゃれが楽しめるようにしています。また職員側からも女性にはハンドマッサージやマニキュアなど施し、喜ばれています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は調理専任者が入居者の好みや指定形態にも対応し手作りしています。海苔巻きが得意な方に披露する場を設けたり、干し柿作りやピワの皮向き、ギョーザパーティーなど催し、食の楽しみに触れる機会も計画実施しています。	料理専任者が入居者の好みや季節の食材を反映させた手作りの食事を提供している。献立は一応あるものの、その日の状況によっては内容を変更したり、代替え食に応じながら、常食やミキサー食、一口大のおにぎり等個別に対応している。収穫したびわの皮むきやギョーザ作り、巻き寿司等入居者が食に関わる機会も楽しみ毎の一つとして企画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎食チェックしています。また嚥下状態に応じて個別にミキサー食やきざみ食、おにぎりなど提供し、安全な経口摂取を心がけています。水分摂取が少ない方はチェック表を用意し、職員への意識づけをしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥性肺炎防止の意味もあり、毎食後の口腔ケアは徹底して行っています。利用者様によっては訪問歯科による定期的なケアも取り入れています。歯科医による月1回の口腔ケア勉強会も開催しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り布パンツの着用を継続しています。尿意の訴えがなく紙パンツをしようしている方も日中は排泄のタイミングを見計らってトイレ誘導し自尿の排泄を促すようにしています。	日中は可能な限り、布下着で過してもらいようにしており、リハビリパンツに移行する際には使用状況や一日の使用枚数をチェックしながら対応している。個別の時間帯や食前食後の誘導により失敗を減らし、自分でトイレや行かれる方も見守りや確認をお個案って居る。日中と夜間帯の排泄用品の使い分けにより負担軽減とし、夜間に使用されるポータブルは使用後は衛生管理に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期薬や頓服薬が指示されていることもありますが、毎朝ヤクルトや牛乳を飲用され、日頃からこまめに水分摂取し、食物繊維の多い食材の活用など自然排便につながることも試みしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に業務都合により週2～3回午後の入浴が一般的になっています。今年度機械浴が導入され、介護度の高い方も安全な入浴が可能になりました。入浴拒否者には事前に散歩をして風呂場へ誘導するなどの工夫も行っています。	入浴は週2～3回、一日に4～5名の入浴を支援し、新たに機械浴を導入したことで全入居者が湯船に入ることが出来ている。入浴拒否のある方には自然に入浴に誘い、強い拒否が見られる場合には足浴や清拭で徐々に馴れてもらいながら、納得して入ってもらっている。入浴後には入居者の年齢や状況を見て1時間程度居室で休息をってもらう事としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠剤の使用者は数名のみ。日中の短時間の午睡や昼間に体を動かすことで安眠促進しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの薬剤管理使用報告書に目を通したり、薬剤師や施設看護師からも助言や指導を受けています。服薬ミス防止のため複数人でのチェックを行い、飲み込むまでの確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	廊下のカーテン開閉や茶わん洗い、花の水やり等をご自身の日課として行われている方もいらっしゃいます。最近では飲みなれたサプリや手作りの梅干を持参されることもあり、これまでと変わらない生活が提供できるよう考え支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出はほとんどできていませんが、誕生日に職員とドライブしたり、専門医受診後に商店街を職員とぶらぶら歩いて帰ったり、ホーム中庭の散歩や日光浴など、今できる形の外出支援を行っています。	専門医への受診時に地域の商店街を歩いたり、江津湖周辺のドライブやホーム周辺を散歩する等身近な外出を支援している。天気の良い日には、中庭やデッキに出て身体を動かし、室内活動等外出に代る室内でのレクレーションを工夫している。誕生日の企画としてドライブに職員から誘いながら出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状では、ほとんどの利用者様が金銭管理できない状況にあり、お金を管理されているのはほんの一部の方に限られていますが、お金を持つことで安心感を得たり、使う喜びを感じておられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	帰宅願望の強い方がおられ、家族との文通支援をおこなっています。文通はご本人への良い影響ばかりでなく、手紙に記された文面をみてご利用者様の思いを知り、家族が感涙されることもあり、続けていきたい支援の一つです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内は広くて日当たりも良く、良い環境にて過ごして頂いていると考えております。特に臭いや温度湿度管理には気を配っております。季節感のある飾りつけにもこだわっています。	広々とゆとりある室内には、居室中心が主流になられても状況を見ながらホールで一緒に過ごすことができるよベッドを配置している。感染症対策としてこれまで以上に共有部分の掃除や消毒を徹底し、2時間毎の換気とともに、大型の窓からは自然光や風を取り入れ、居心地の良い居場所を提供している。オープンな台所から野菜の下拵えの音や匂いが食への期待を引き出している。庭に植えられた桜等の木々がホームの経年を物語り、理念である“ほっとできる心地よい空間づくり”が表出したホームである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にはソファを設置し、一人で過ごせる場所と共有空間を区別し、状況にあった居場所の提供をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の利用については制限を加えず、ご利用者様やご家族が自由に利用できるように職員側もサポートしています。入所時に仏壇やソファ、テレビ、家族の写真など持ち込まれ思い思いの生活を楽しんでいただいています。	入居前にこれまでの使いなれたものや、馴染みの小物等の持込みを依頼している。ソファやテレビ等の他、仏壇を持ち込み朝の日課として水を供え、手を合わせる入居者等家庭の延長上とした居室ももある。入居者は日中の大半をホールで過されており、午後からゆっくりしたいときには居室に戻られる等入居者自身で使い分けされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の安全確保に注意し、自由に生き生きと生活できるようにしています。ただ、高齢化もすすみ、見守りの頻度は高くなってきています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390101568		
法人名	株式会社 かいごのみらい		
事業所名	グループホーム泉ヶ丘 (エメラルドユニット)		
所在地	熊本市東区南町16-8		
自己評価作成日	令和4年3月4日	評価結果市町村受理日	令和4年5月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和3年5月にホーム長が交代し、手探り状態の1年でした。まずは自立支援推進のため下肢訓練やヨガやリハビリ活動など毎月の月間目標を決め、一歩ずつの取り組みを始めております。コロナ禍で面会制限が長期に渡るといふ非常事態の中、ご利用者様の帰宅願望や不穏などの周辺症状が強く見られることもあり、ご利用者様の思いには寄り添いの姿勢を第一に、面会制限中のご家族とご利用者様との文通なども取り入れ、お会いすることはできなくても、ご家族との絆を紡いでいけるよう努めてまいりました。また令和2年度より「新型コロナ感染者ゼロ」を目標に施設内での感染対策の徹底や職員一人一人が高齢者施設に勤務する職員として日常生活においても高い倫理観をもって行動した結果として、当ホームにおいて2年間にわたり新型コロナ感染者を出していないことを自負しております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和4年3月29日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼後に勤務者全員で理念を唱和し、休憩室やトイレ等、目にとまる場所にも掲示しており、理念の共有を心がけています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の活動も新型コロナ感染防止のため自粛されており、また当ホームでも面会制限や認知症カフェの休止等行っている為、地域の方との関わりは今年度かなり減りました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は地域の皆様と関わる事ができず、地域貢献はできていませんが、せめて地域の皆様の癒しの場となるべく、クリスマスシーズンに施設周囲にイルミネーションの点灯を試みました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍であることを考慮し、対面での会議は行わず書面での報告となりました。感染対策を優先したために、一方的な情報提供となり、率直なご意見をお聞きする機会が作れませんでした。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	まだ市町村担当者様との協働関係を築くにはいたっておりません。時間的余裕がなく参加できていなかった認知症カフェ連絡会には3月度より参加予定です。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入所時に身体拘束をしないケアに取り組む意向をご説明しています。転倒のリスクのある利用者様など、毎月手紙や電話でご家族と情報共有を行いながら支援内容にも工夫を凝らすよう努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	施設内2カ所に「高齢者虐待ゼロ宣言」を掲示し、職員への意識啓発を行っています。今後は研修等を通じてさらなる周知徹底を図って行きたいと思えます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は権利擁護に関する研修会等への職員の参加はなりました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては一つ一つ確認をとりながらすすめています。また重度化により発生する機器や訪看費用についてもご家族と事前に話し合い、納得いただいた上で使用時期等を検討しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会活動もコロナ禍にて見合わせた為、ご意見をお聞きする場として、ご家族来訪時には必ず近況をお伝えし、遠方からであってもご様子を見て頂き、ご意向を伺うようにしています。ご意見箱への投稿は無く、待機者からの苦情が1件あり。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善委員会を機能させ、現場の職員から受けた個別の提案や新しい試みについては必ず意見交換を行いました。また月1回のケア会議でも全職員に何かひとこと発言する場を設けるようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課のためのチャレンジシートをもとに職員と個別に話をする機会を設け、職員の思いを知ることができるよう努めました。また可能な限り、職場環境・条件への希望には対応するようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が積極的に外部研修等に参加しやすいように費用の一部負担等行っています。また無資格者には来年度、初任者研修を受ける機会を確保するので研修の受講を計画するよう話をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	これまで時間的な余裕がなく積極的な交流の場が持てませんでした。またホーム長交代のご挨拶も遅れ、連携という点では出遅れています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前より数回の面談を行い、利用者様およびご家族との信頼関係を築けるよう努めました。利用者様の言動をヒントにご家族から情報収集し、入所時のケアプランに反映させました。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学の段階から時間をかけ、ご家族の思いに向き合い対応させていただいたせいか「絶対、ここに入所したい」と言っていただけるようになりました。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の情報をもとに入所時支援を始めますが、共同生活を送る中で利用者様のニーズを職員らと一緒に考えていく姿勢を重視し、担当職員によるモニタリングの試みを開始したところです。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様には、日々の介護以外にも、受け持ち職員をつけることで関わりの幅をもたせ、利用者様を深く知る努力をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族来訪時には、近況報告し情報を共有することで共に支えあう協力体制をとっています。また利用者様とご家族の良き理解者であるよう心がけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外部との接触の機会が減ってしまいましたが、馴染みの美容室の利用やかかりつけ医の受診等はタイミングを見計らい継続するようになりました。姉妹での入居も2組に増えました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の状態や相性など考慮し、食事席の配置をしたりユニット間の交流も取り入れています。集団に入れない場合は、職員が関与しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所された方や看取り退所となったご家族からのご相談等には誠意を持って対応、支援するよう努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	業務優先とらずに利用者様の訴えや言動から見えてくる個々の思いを汲み取り、「思いや意向へのこだわり」をもった関わりができるように職員一同努めております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前よりご本人やご家族と面談する機会を増やし、なるべく多くの情報を収集できるようにしています。またこちらからも積極的に情報提供することでご家族もまた色々な話をしてくださるきっかけになっているように思います。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	チーム内で記録するチェック表を作成し、こちらの働きかけに対する反応を記録していくことでその方にあつたケアの把握やチーム内の情報共有しチームケアとして対応しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーだけでなく、職員もモニタリングに加わる試みを始めました。またご家族だけでなく、担当医師、薬剤師との意見交換もおこなっています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録が完全電子化され、業務の効率化や迅速な情報共有が出来るようになりましたが、一方で入力操作に苦手意識をもつ職員も多く、記録内容が単純化している傾向も見られます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	若年性認知症の利用者様には高齢者とは異なるニーズや課題があり、現行制度の枠外での活動の場作り等、現在模索中です。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にて活発な地域資源の活用ができていません。規制緩和の時期に訪問リハ・マッサージや訪問理容を再開したり、夏には職場体験の高校生の受け入れなどを行いました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の同意を得て、協力医をかかりつけ医とさせて頂いていますが、24時間対応電話を設けられ、より適切な医療と安心が得られています。また婦人科や精神科等、従来のかかりつけがある場合は職員同行し受診支援を行っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニットに1名の看護師を配置し、またホーム長、ケアマネも看護師であるため、介護職の気づきや疑問には看護職がわかりやすく丁寧に説明しています。時には外部訪問看護を入れ、協働体制をとっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には主治医とご家族の意向をもとに入院先が決定されます。入院中は病院関係者と情報交換、退院計画を話し合いながらより早期の退院となるよう支援しています。また退院時カンファレンスにも参加し安心した生活が送れるよう各所と連携をとっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に必ず医療連携同意書の確認を行い、医師の治療方針等は早い段階からご家族に伝え意見交換を行っています。終末期には訪問看護の力を借り、その人らしさを取り入れた看取りプランを計画し実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は勉強会のみで心臓マッサージ等の実習はできていません。看護師による利用者様の急変対応後には、介護職への初期対応の復習を行うようにしています。AED設置についても本部と交渉中です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度はコロナ禍のため年2回施設内での自主防災訓練のみとなりました。訓練時にはあわせて漏電防止で全室コンセントのチェックも行っています。熊本地震後の備蓄の多くが期限切れとなり補充しましたが、まだ数の不足があります。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみや慣れから言葉遣いが不適切なケースも見られます。また見守り重視となりトイレ介助時にドアが開いていることなどもあり、要検討事項です。お互いが注意しあえる職場作りも必要と考えます。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着たい服を選んでいただいたり、飲み物の希望もお尋ねして提供するようにしています。また食事時間や入浴時間はある程度目安はあるものの、基本ご利用者様の時間帯に合わせて支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いすることなく、その時のご利用者様のペースを尊重し、ご利用者様ファーストの支援を続けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容と時には化粧を楽しんだり時には美容室に行ったりとその人らしいおしゃれが楽しめるようにしています。また職員側からも女性にはハンドマッサージやマニキュアなど施し、喜ばれています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は調理専任者が入居者の好みや指定形態にも対応し手作りしています。海苔巻きが得意な方に披露する場を設けたり、干し柿作りやビワの皮向き、ギョーザパーティーなど催し、食の楽しみに触れる機会も計画実施しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎食チェックしています。また嚥下状態に応じて個別にミキサー食やきざみ食、おにぎりなど提供し、安全な経口摂取を心がけています。水分摂取が少ない方はチェック表を用意し、職員への意識づけをしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥性肺炎防止の意味もあり、毎食後の口腔ケアは徹底して行っています。利用者様によっては訪問歯科による定期的なケアも取り入れています。歯科医による月1回の口腔ケア勉強会も開催しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り布パンツの着用を継続しています。尿意の訴えがなく紙パンツをしようしている方も日中は排泄のタイミングを見計らってトイレ誘導し自尿の排泄を促すようにしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期薬や頓服薬が指示されていることもありますが、毎朝ヤクルトや牛乳を飲用され、日頃からこまめに水分摂取し、食物繊維の多い食材の活用など自然排便につながることも試みしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に業務都合により週2～3回午後の入浴が一般的になっています。今年度機械浴が導入され、介護度の高い方も安全な入浴が可能になりました。入浴拒否者には事前に散歩をして風呂場へ誘導するなどの工夫も行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠剤の使用者は数名のみ。日中の短時間の午睡や昼間に体を動かすことで安眠促進しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの薬剤管理使用報告書に目を通したり、薬剤師や施設看護師からも助言や指導を受けています。服薬ミス防止のため複数人でのチェックを行い、飲み込むまでの確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	廊下のカーテン開閉や茶わん洗い、花の水やり等をご自身の日課として行われている方もいらっしゃいます。最近では飲みなれたサブリや手作りの梅干を持参されることもあり、これまでと変わらない生活が提供できるよう考え支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出はほとんどできていませんが、誕生日に職員とドライブしたり、専門医受診後に商店街を職員とぶらぶら歩いて帰ったり、ホーム中庭の散歩や日光浴など、今できる形の外出支援を行っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状では、ほとんどの利用者様が金銭管理できない状況にあり、お金を管理されているのはほんの一部の方に限られています。お金を持つことで安心感を得たり、使う喜びを感じておられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	帰宅願望の強い方がおられ、家族との文通支援をおこなっています。文通はご本人への良い影響ばかりでなく、手紙に記された文面をみてご利用者様の思いを知り、家族が感涙されることもあり、続けていきたい支援の一つです。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内は広くて日当たりも良く、良い環境にて過ごして頂いていると考えております。特に臭いや湿度管理には気を配っております。季節感のある飾りつけにもこだわっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にはソファを設置し、一人で過ごせる場所と共有空間を区別し、状況にあった居場所の提供をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に仏壇やソファ、テレビ、家族の写真など持ち込まれ思い思いの生活を楽しんでいただいています。ホールにも使い慣れた畳や座椅子を配置し、家での過ごし方と近い環境作りにも努めます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の安全確保に注意し、自由に生き生きと生活できるようにしています。ただ、高齢化もすすみ、見守りの頻度は高くなってきています。		